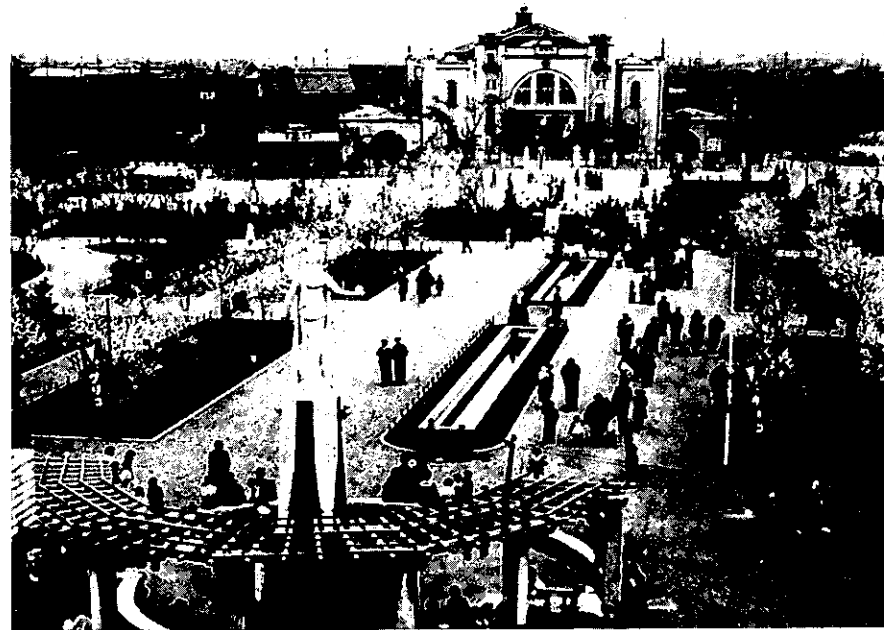


# 戦災を受ける前の街並

中世自由都市は、大坂夏の陣（一六一五年）によって灰燼に帰したが、その後、江戸幕府が、新しい区画によって復興。直轄領として、糸割符貿易の特権等を与えられて近世都市の歩みを続けた。幕末から明治にかけては、おしくも開港場からはずされたが、当時の町衆らによって、港の修築、洋式灯台築造や紡績、レンガ製造から自転車、刃物、じゅうたん、さらし産業だけでなく、広く新技術・生産方法などを積極的に取り入れたバラエティーに富んだ有数の商業都市へ発達がはかられた。これらの進取性によって明治22年4月1日には、全国30市と共に初の市制を施行。府内では、大阪市とともにツイン都市として発展した。第5回内国勸業博覧会明治36年を契機に東洋一の水族館が設けられ、その後大浜公園一帯が、潮湯・海水浴・少女歌劇をはじめとした京阪神地区の人たちの一大レジャーセンターとなった。また、与謝野晶子らの歌人を生んだほか文化・芸能の分野でもめざましいものがあった。さらに関西初の私鉄や民間航空の草分けとなったほか、テニス・すもう・水泳などスポーツ界でも全国規模の大会がくりかえされた。また、郊外の堺東、初芝、大野、浜寺、諏訪森、上野芝などには良好な住宅地が開発され、歴史・伝統と進取性の相まった近代都市として発展していた。



市立水族館前庭 明治36年の第5回内国勸業博覧会の第2会場として開設された水族館は、その後も東洋一の施設として、堺の誇りであったが、飼料不足で魚が死に補給も困難となり、19年3月末に閉鎖された。(上方は大浜公会堂)



昭和5年ころの宿院交差点 戦前までの堺の中心地で、「お旅所」と呼ばれた住吉・大鳥両大社の頓宮をとりかこんで劇場、映画館、飲食店など各種の商店、銀行、事務所などが建ちならび、にぎわいをみせていた。



昭和初年の殿馬場付近 ①旧市庁舎 ②府立堺高女(現府立泉陽高) ③殿馬場小学校(現殿馬場中) ④東本願寺堺別院

大浜潮湯付近 市民はもとより、京阪神方面の人たちから、海辺のレジャーセンターとして親しまれた大浜潮湯も、ぜいたくは敵との理由で、19年2月に営業を停止。経営者の南海電鉄から海軍に献納され、その錬成道場と化した。



堺市鳥瞰図(昭和10年 吉田初三郎氏画 堺市博物館蔵) 戦災前の市街地が刻明に描がれている。航空写真は一部を除いてほとんど残されていないところから、戦前の全体的な町の姿をほうふつさせる貴重な資料である。左肩に「由良要塞司令部検閲済」の印が押され、攻撃目標になると思われた軍事施設や工場の説明は、すべて張り紙でかくされているところなどに戦時色をうかがわせる。しかし、空襲は、工場・民家の区別なく無差別爆撃であった。

